

## 当院で実施する研究に対するご協力をお願い

この文書は、過去に当院が参加していた、公益財団法人がん集学的治療研究財団の実施する臨床研究に参加された患者さん又は患者さんの代諾者の方に対し、財団が保管しています過去の臨床研究の情報が今回の統合解析研究に用いられることについて、情報の使用拒否の機会を確保するために公開するものです。

本件について、過去の臨床研究の情報の使用拒否を希望される場合には、今回の研究には使用を致しませんので、2022年8月31日までに下記の連絡先までお申し出ください（これをオプトアウトといいます）。

ご連絡をいただかなかった場合には、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究番号	JFMC-DB2020-05
研究課題名	高齢者における大腸癌術後補助化学療法の有効性と忍容性
対象者及び対象期間	がん集学的治療研究財団が過去に実施した7試験の大腸癌試験に参加された大腸癌治療切除術患者さん JFMC7 大腸癌患者 3394例 1986年2月～1994年3月 JFMC15 大腸癌患者 2315例 1989年1月～1997年12月 JFMC33 大腸癌患者 1071例 2005年10月～2012年9月 JFMC35 大腸癌患者 959例 2006年4月～2014年3月 JFMC37 大腸癌患者 1304例 2008年9月～2014年12月 JFMC38 大腸癌患者 111例 2009年1月～2016年12月 JFMC41 大腸癌患者 882例 2010年11月～2015年3月
研究の目的	高齢化社会に伴って、大腸癌患者に占める高齢者の割合は増加の一途をたどっているが、高齢者大腸癌患者に対する補助化学療法施行の根拠は非高齢者を中心とした大規模臨床試験の結果に基づいています。また、日常診療においては、高齢者に対して補助化学療法が施行されないことも多いため、高齢者における大腸癌術後補助化学療法の忍容性、予後、単剤療法に対する併用療法の上乗せ効果についての十分な検討はなされていません。そこで今回、過去に行われた研究で得られたデータを用いて統合解析を実施し、高齢者と非高齢者における術後補助化学療法忍容性、予後、忍容性と予後の相関性、単剤療法に対する併用療法の上乗せ効果について比較解析します。これにより、高齢者大腸癌患者に対する治療法の最適化に向けた知見を得ることを目的とします。
研究に用いる情報の種類	患者背景情報、病理学的情報、安全性情報、投与情報、追跡期間の情報 研究に用いる情報には、個人を特定出来る情報は含まれません。
連絡先	和泉市立総合医療センター 外科 阪本一次 住所：〒594-0073 大阪府和泉市和気町4-5-1 電話番号：0725-41-1331

※本件に関する詳細な情報は、公益財団法人がん集学的治療研究財団のホームページ (<https://www.jfmc.or.jp>) で公開しています。